

7/30 3版

佐賀を出 勝 拠点に れせない

佐賀空港へのオスプレイ配備などのため駐屯地建設工事が強行されている佐賀市で、軍事基地化反対の市民集会が29日、開かれ、「佐賀空港オスプレイ等配備に反対する裁判を支援し、地権者とともにたたかう市民の会」が設立されました。日本共産党的「比駿平参院議員が駆け付けました。

仁比氏あいさつ

提訴する地権者を代表し古賀初代氏（ノリ漁師）が、度重なる抗議、申し入れにもかかわらず国や県、漁協には声が届かなかつたと強調。「最後の手段として裁判をし、頑張る」と語りました。

「仁比氏は、自衛隊との共用を否定した公害防止協定を籠し、地権者全員の合意のないまま工事を強行、「日本版海兵隊」など大軍拡を進める岸田政権を批判。「佐賀をアメリカの最前線の出撃拠点にするわけにはいかない。会を強く大きく発展させない。会を強く大きく発展させない。会を強く大きく発展させない。会を強く大きく発展させない。」と力を込めました。

設立総会で選出された共同代

表の一人、吉岡剛彦・佐賀大学教授が「市民の良心と正義を示す活動をしたい」と決意を語りました。佐賀空港対岸の福岡県柳川市とオスプレイが暫定配備されている千葉県木更津市の平和団体の代表が連帯を表明。立る予定です。



オスプレイ来るなと声を合わせる参加者ら=29日、佐賀市

憲民主党の原口一博衆院議員が
あいさつしました。
東島浩幸弁護団長が、国への
工事差し止めを求める訴訟の趣旨を説明。原告らは、8月29日に佐賀地裁に仮処分を申し立て